

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くればす（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		～ 令和8年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	令和8年1月21日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所である事から就学前から就学後と切れ目なく、統一した支援を行う事が出来ている。	児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する際には、事業所内で移行の話し合いを行い、統一した支援に繋がっている。	就学後の地域移行についても視点を深め、保護者の方と共有し、必要に応じた支援を行っていく。
2	地域に1つの事業所として、関係機関と顔の見える関係を作りやすい。	近隣に支援学校があり、日々申し送り時/月一度の連絡会/年2回の支援懇談会で丁寧な情報共有や連携を深める事が出来ている。また、地域の小中学校も15分圏内と物理的にも近く、送迎等行う中で丁寧な情報共有を行っている。	顔の見える関係作りを継続し、連携を深めていく。
3	同一施設内に成人の方利用の事業所がある為に連携を取りやすい。	家庭や相談支援事業所等と連携を取りながら、本人のより安心した移行へと繋がっている。	関係機関と連携を深める中で役割分担を明確にし、移行に向けて、より具体的な支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会の提供。	保護者同士が顔を合わせる機会が少ない。また、兄弟が参加出来る行事が少ない。	保護者同士の繋がり作り為の茶話会を計画立て実施していく（頻度、時間帯、曜日等の工夫や改善を随時行う） 兄弟児支援についても家族が参加しやすい活動計画を立て、必要に応じた支援を行っていく。
2	地域の他の子どもと活動する機会の提供。	週末、祝日、長期休暇は地域の資源を利用した活動を行い、地域の方や子どもと活動を行う事も出来ているが、平日においては時間等の兼ね合いもあり、活動提供が出来ていない。	地域の方との交流等、平日に出来る内容の検討を行う。
3	家族に対して家族支援プログラムや家族等も参加出来る研修会や情報提供の機会の実施。	事業所内において、家族支援プログラム等を行う機会が少ない。また、児童発達支援センター等が行っている圏域での研修の周知が上手く出来ていない。	家族支援プログラムの年間計画を立て、事前に保護者の方に周知を行っていく。また研修会の情報提供をICT等を活用する中で、広く伝えていく。 外部機関へ必要な支援/研修の機会等の相談を行う。